

大鹿村『水循環・資源循環のみち2022』構想

令和4年度策定

大鹿村は下伊那郡の北東部に位置し、東には南アルプス3,000メートル級の間々がそびえ立ち、西は伊那山地に隔てられた自然環境が豊かな村です。

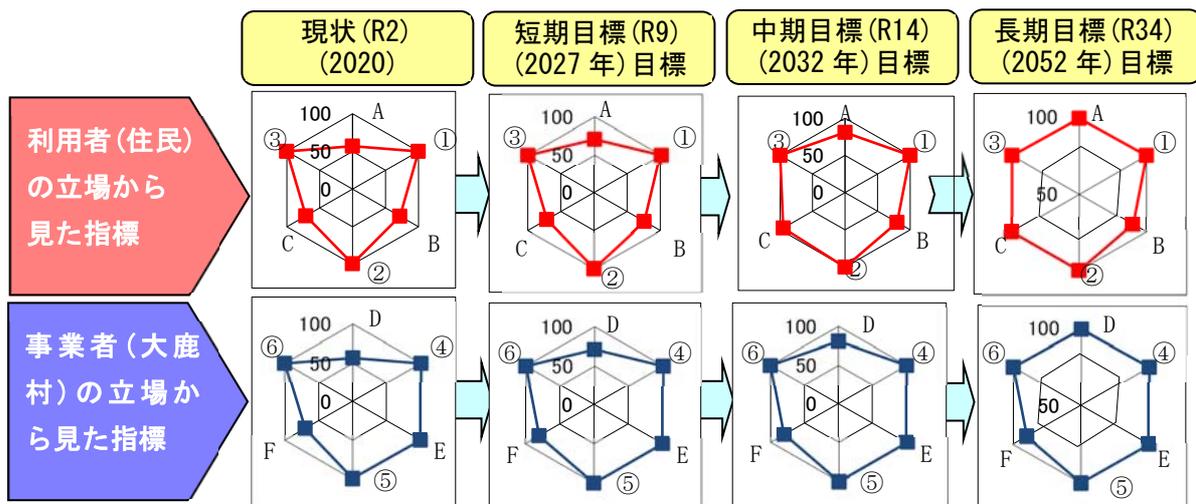
この自然環境や水環境を後生に残すため、平成5年から生活排水対策として合併処理浄化槽設置整備事業を進めてきましたが、人口減少や高齢化の進展など社会情勢の変化への対応が求められています。

また、生活排水施設は、機能の維持や利用者である住民の皆様の利便性や快適性を持続していくため、今後とも合併処理浄化槽設置補助のほか、設置後の維持管理経費にも補助を行い合併処理浄化槽の普及を図る必要があります。

このため、2010年から50年先を見据えた経営計画に基づき、生活排水施設の持続的な運営と良好な水と資源の循環を目指すため、令和4年度に、従来の構想を見直して、30年後までの生活排水対策の構想である大鹿村「水循環・資源循環のみち2022」を策定しました。

大鹿村の指標と目標

大鹿村では、構想の長期目標年度である30年後の令和34年度に向けて、利用者（住民）の立場から見た指標と事業者から見た指標として、県下の統一指標のほか、当村の現状を把握した上で、オリジナル指標を設定し、短期、中期、長期の目標を以下のとおり設定しました。



- 利用者（住民）の立場から見た指標 ※指標の数字はR2→R9→R14→R34を表す
- (1) 暮らしの快適さと安全を表す評価項目
 - A快適生活率(%)：56.5→70.9→80.7→98.9 【県下統一指標】
 - ※新設加え、人口増施策として村による空き家リノベーションを令和5年度以降実施
 - ①浄化槽台帳の整備率(%)：100.0→100.0→100.0→100.0
 - ※浄化槽の加入状況に加え、管理状況を把握するため浄化槽台帳の電子化を進めます。
 - (2) 環境への配慮を表す評価項目
 - B環境改善指数(%)：72.0→76.0→85.0→90.0 【県下統一指標】
 - ※生活排水の環境への影響・関連性等について周知します。
 - ②法定検査受検率(%)：99.6→100.0→100.0→100.0
 - ※各家庭の浄化槽の適正な維持管理のため、法定検査（浄化槽法第11条）の受検を進めます。
 - (3) 生活との関連性を表す評価項目
 - C情報公開実施指数(%)：71.4→71.4→95.2→100.0 【県下統一指標】
 - ※浄化槽未設置者への意向調査等を行い設置者増への施策を検討します。
 - ③環境学習率(%)：100→100→100→100
 - ※小学生を対象に水辺の環境学習を進めます

■事業者（市町村）の立場から見た指標

(1) 事業の達成度を表す評価項目

D 汚水処理人口普及率(%)：56.5→70.9→80.7→98.9 【県下統一指標】

※新設加え、人口増施策として村による空き家リノベーションを令和5年度以降実施

④ 浄化槽台帳の整備率(%)：100.0→100.0→100.0→100.0

※浄化槽の加入状況に加え、管理状況を把握するため浄化槽台帳の電子化を進めます。

(2) 環境への貢献を表す評価項目

E バイオマス利活用率(%)：100.0→100.0→100.0→100.0 【県下統一指標】

※民間事業者により堆肥化し、肥料として広く活用します。

⑤ 法定検査受検率(%)：99.6→100.0→100.0→100.0

※各家庭の浄化槽の適正な維持管理のため、法定検査（浄化槽法第11条）の受検を進めます。

(3) 経営の長期的な状況を表す評価項目

F 経営健全指数(浄化槽維持管理指数)：70.0→80.0→80.0→85.0 【県下統一指標】

※浄化槽の適正管理(判定ア・イ)につながるよう、清掃の必要性等を啓蒙普及します。

⑥ 環境学習率(%)：100→100→100→100

※小学生を対象に水辺の環境学習を進めます

住民参画への取組

浄化槽の設置について村の補助を受けた方には、設置完了検査のときに代行管理者、施工業者、管理者の立会いを求め、適正な管理をお願いしてきましたが、今後も取組を継続してまいります。



大鹿村『生活排水エリアマップ2022』

令和4年度策定

大鹿村の生活排水は、平成5年度から合併処理浄化槽設置整備事業を導入し整備を行ってきました。途中の平成8年度から9年度にかけて農業集落排水事業の検討も行われましたが、大鹿村の人口、地形、高齢化等を考慮し生活排水対策は浄化槽で行う方針となりました。

生活排水エリアマップ2022では、今後も浄化槽整備を進めることにより、普及率促進を図ることとしています。

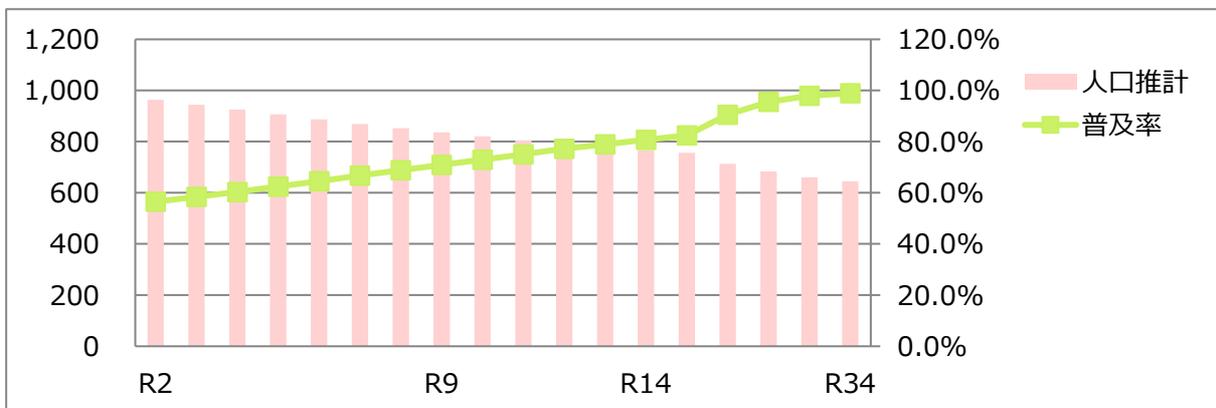
生活排水エリアマップ2022（概要図）



「生活排水エリアマップ2022」
村内全域が浄化槽整備区域(個人設置型)

浄化槽整備率の目標
(汚水処理人口普及率)
現状R2=56.5%
R9=70.9%
R14=80.7%
R34=98.9%

人口の推計と普及率の推移



- 人口推計は令和3年度に策定した第5次総合振興計画の「大鹿村人口ビジョン」を基に推計
- 普及率は、近年の処理人口増加の推移に基づく独自の推計

アクションプランへの取組

■浄化槽整備に関する取組

- ・浄化槽整備推進のため設置補助をしています。

補助金額	5人槽	529,000円
	7人槽	744,000円
	10人槽	824,000円

また、附帯施設の事業費の80%以内、限度額150,000円の上乗せ補助があります。

- ・浄化槽の維持管理費の補助として1浄化槽当たり年額20,000円を助成しています。
- ・浄化槽の清掃費の補助として1浄化槽当り1回限度額5,000円を助成しています。
- ・浄化槽整備による生活の快適性や環境保全への貢献等を啓蒙するとともに、村施策の移住定住対策として空き家リノベーション等を行い、年間4基程度の整備により普及率向上につなげます。

防災・減災対策への取組

■地震対策へ向けた取組について記載

- ・浄化槽台帳により、設置個所等の把握を行い、被災時に対応ができるようにします。
- ・地震が発生した場合の浄化槽施設の機能保全対策は設置者各自でお願いしますが、設置者と保守点検業者との維持管理契約により速やかな復旧を目指します。
- ・発災後、仮設トイレ等の必要な場所及び数量を把握した上で、避難所については仮設トイレや室内に設置可能な小型で持ち運べる簡易型トイレ等を速やかに設置できるようリース会社等との協定を進め、緊急時の体制を確立します。
- ・断水世帯には、備蓄してある既設の洋式便器等に設置して使用する携帯型トイレを配布しますが、数が少ないため、有事に対応できるよう備蓄を進めます。
- 更に、備蓄数が不足する場合は、協定自治体等からの手配を行います。
- ・上記対策を、村の災害時における事業継続計画（BCP）の取組として位置づけます。

大鹿村『バイオマス利活用プラン2022』

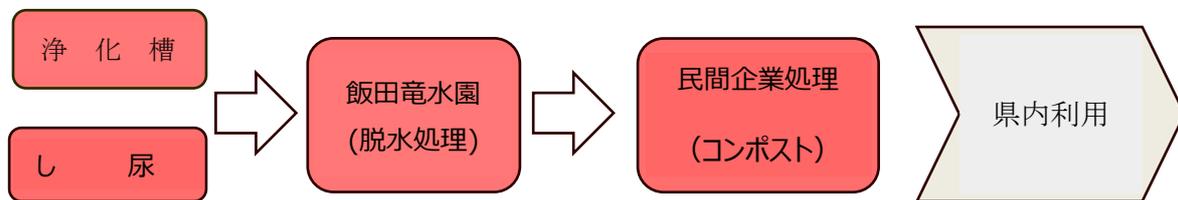
令和4年度策定

大鹿村の浄化槽やトイレから発生する汚泥（バイオマス）は、南信州広域連合 飯田竜水園で、飯田市、松川町、高森町、喬木村、豊丘村の6市町村と共同で処理を行っています。

その処理方法は汚泥を脱水した後、地元企業により堆肥化（コンポスト化）し県内等で肥料として利用しています。今後もバイオマスの利活用の観点からの引き続き活用してまいります。

大鹿村におけるバイオマス利活用プラン

■現状



- ・浄化槽汚泥とし尿は、南信州広域連合 飯田竜水園へ搬入され脱水を行い、民間事業者により堆肥化した後に県内で肥料として利用しています。

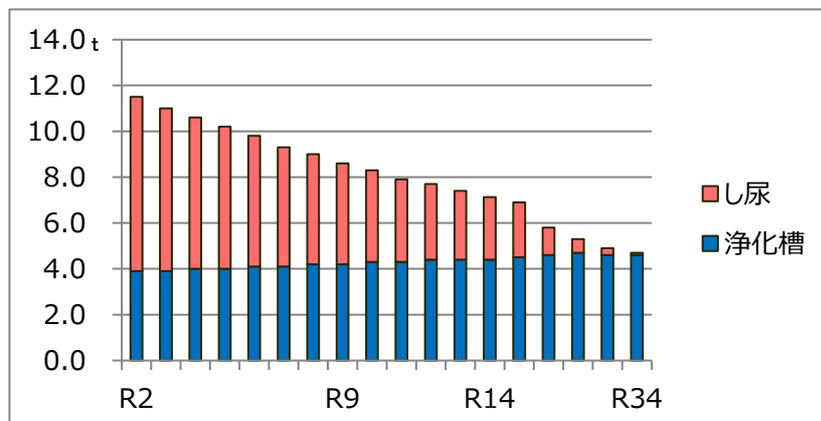
大鹿村バイオマス利活用アクションプラン

■南信州広域連合 飯田竜水園

飯田市、松川町、高森町、喬木村、豊丘村、大鹿村の6市町村が共同で処理をしています。
（平成23年度に施設の改修済み）

また、脱水汚泥を民間事業者により堆肥化し、県内で肥料として利用しています。

「大鹿村」バイオマス発生量予測



- し尿汚泥は浄化槽設置整備事業により浄化槽が増加することにより減少します。

「大鹿村」バイオマス利活用プラン及び広域的なバイオマス利活用プラン

■南信州広域連合 飯田竜水園

飯田市、松川町、高森町、喬木村、豊丘村、大鹿村の6市町村が共同で処理をしています。
(平成23年度に施設の改修済み)

【短期】 【中期】

脱水汚泥を民間事業者による堆肥化を継続し、県内で肥料として有効利用します。

【長期】

搬入されるし尿等の量が減少傾向にあるため、飯田竜水園改修の協議に併せ、施設経営面(使用料等)についても検討します。

大鹿村『経営プラン2022』

令和4年度策定

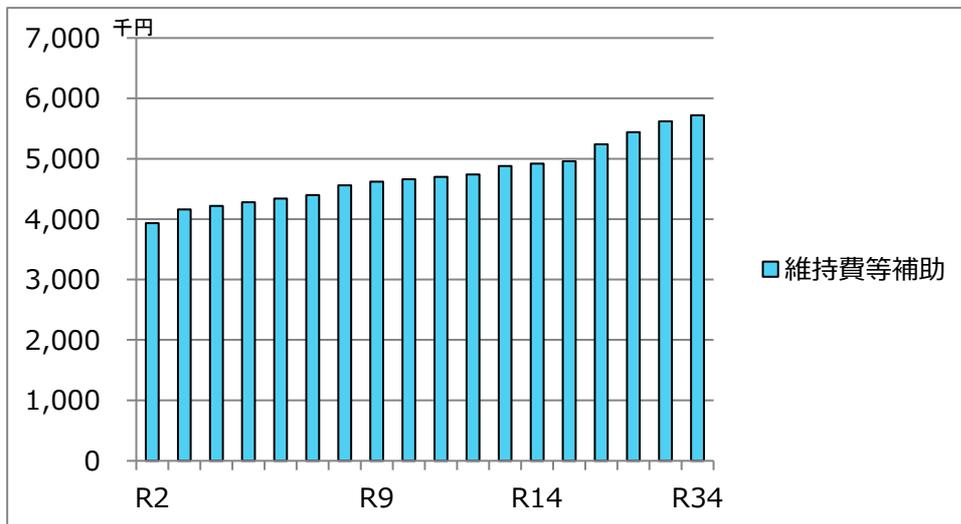
大鹿村では、平成5年度に浄化槽設置整備事業を開始し、村内全域が対象区域となっています。

今後も浄化槽整備を進めますが、村民の皆様が将来にわたって持続可能な経営を検討していく必要があります。2010年から50年先の状況まで見通した上で、構想の長期目標年度である30年後の令和34年度までに実現可能な改善計画を検討し、「経営プラン2022」を策定しました。

大鹿村における生活排水の経営計画

- 浄化槽の適正管理のため、維持管理交付金を設置者(管理者)に対して毎年20,000円交付し、法定検査の100%受検を目指します。
- 浄化槽の適正管理のため、清掃費補助金を設置者(管理者)に対して1回5,000円交付し、法定検査ア、イ判定増を目指します。
- 浄化槽の設置補助金については、年間4基程度を計画していきます。
- 水環境の保全に向け、上記補助金制度を継続します。

維持管理費交付金の推移予測



現状把握と効果検証

■大鹿村「水循環・資源循環のみち2015」構想の見直しに当たり、事業者が構想における現状把握と効果検証を行いました。その結果は次のとおりです。
また、その結果を基に今回見直しを行いました。

指標	現状把握 (令和2年度末現在)		効果検証結果	見直し方針
	計画	実績		
A:快適生活率	62.9	56.5	A指標は、高齢者の増加に加え独居老人世帯の増加により目標の62.9%に達していません。	A指標は、令和19年の目標を89.3%とし、目標達成するように設置者の掘起しや補助制度の啓蒙を積極的に行い、浄化槽設置につなげ汚水処理人口の増加を図ります。
①:浄化槽台帳の整備率(%)	100	100	①指標は、目標どおり進んでいます。	①指標は、当初目標どおりに進めます。
B:環境改善指数	72	72	B指標は、目標どおり進んでいます。	B指標は、当初目標どおりに進めます。
②:法定検査受検率(%)	100	99.6	②指標は、概ね目標どおり進んでいます。	②指標は、当初目標どおりに進めます。
C:情報公開実施指数	71.4	71.4	C指標は、目標どおり進んでいます。	C指標は、当初目標どおりに進めます。
③:環境学習率(%)	100	100	③指標は、目標どおり進んでいます。	③指標は、当初目標どおりに進めます。
D:汚水処理人口普及率	62.9	56.5	D指標は、高齢者の増加に加え独居老人世帯の増加により目標の62.9%に達していません。	D指標は、令和19年の目標を89.3%とし、目標達成するように設置者の掘起しや補助制度の啓蒙を積極的に行い、浄化槽設置につなげ汚水処理人口の増加を図ります。
④:浄化槽台帳の整備率(%)	100	100	④指標は、目標どおり進んでいます。	④指標は、当初目標どおりに進めます。
E:バイオマス利活用率	100	100	E指標は、目標どおり進んでいます。	E指標は、当初目標どおりに進めます。
⑤:法定検査受検率(%)	100	99.6	⑤指標は、概ね目標どおり進んでいます。	⑤指標は、当初目標どおりに進めます。
F:経営健全指数	75	70	F指標は、概ね目標どおり進んでいます。	F指標は、当初目標どおりに進めます。
⑥:環境学習率(%)	100	100	⑥指標は、目標どおり進んでいます。	⑥指標は、当初目標どおりに進めます。